



カムバックチュウヒ プロジェクト

守ろう!チュウヒの聖地

堺第7-3区では、絶滅が心配されている

チュウヒというタカの仲間が生息しています

堺第7-3区でチュウヒ(環境省絶滅危惧ⅠB類)の調査を2005年より開始し、2006年以降2009年までに3回繁殖が確認され4羽のヒナが巣立っています。これは、国内的にも数少ない事例として注目されています。しかし、2010年以降は繁殖していません。

全国的にも繁殖地が限られていて、当地は府内唯一の貴重な繁殖地でした。



チュウヒが生きていくには広大な草地や湿地環境が必要

「共生の森」づくりが2004年からスタート。2010年からは関西電力による太陽光発電所(メガソーラー)事業が開始されました。湿地部とその周辺は、植樹を行わずに野鳥の生息できる環境を残すことになっていますが、その面積は約56haしかなく、チュウヒの生息・繁殖には十分な広さではありません。



チュウヒ保護のためのカムバックチュウヒプロジェクトチームの取り組みと課題

- チュウヒの繁殖状況調査、堺第7-3区の鳥類調査を行い、保護のための基礎資料を収集。
- 堺第7-3区の埋め立てが始められて以来41年の年月が経過し、自然植生も草原から低木・中高木への遷移が進行中です。チュウヒが生息しやすい環境を維持するため、植物遷移による森林化が進まないように定期的に樹木の伐採やヨシ原の刈り取りなど草地環境と湿地環境を維持管理することが重要な課題です。
- 私たちは、埋立地のQ池周辺を、毎年10月から2月の繁殖期前まで月に1回程度、外来樹を中心に中高木の伐採と低木や草地の刈り込み作業をしています。



野鳥も人も地球のなかま! 日本野鳥の会に入会しよう!

私たちは野鳥の観察を通じ、野鳥と野鳥の生息する自然を守る活動をしています。全国で会員は約4万人(大阪支部は約2000人)。支部の会員になると探鳥会の案内や鳥の情報がたくさん載っている「むくどり通信」が年に6回届きます。詳しくは支部のホームページをご覧ください。

日本野鳥の会 大阪支部

〒534-0011 大阪市天王寺区清水谷6-16NEXT21 1F

TEL 06-6766-0055 (火・金 AM10時~PM6時 ※ただし祝日は休館) FAX 06-6766-0056

URL <http://sun.gmob.jp/wbsj-osaka/>

チュウヒ (学名)Circus Spilonotus (英名)Eastern Marsh Harrier (漢字名)沢鷺

◆環境省レッドリスト◆

EN：絶滅危惧ⅠB類 指定

◆近畿地区鳥類レッドデータブック◆

ランク1：危機的絶滅危惧種



チュウヒってどんな鳥？

生息地 湿地や干拓地、湖沼岸、河川の岸边などの広いヨシ原で繁殖している。渡りの時期には河原や比較的狭い湿地にも現れる。冬期は全国各地のヨシ原などで見られるが、北日本では少ない。

全長 雄 48cm～雌 58cm 翼開長： 雄 113cm～雌 137cm

鳴き声 繁殖期にはディスプレイをしながら、雄は「ミュー、ミュー」と鳴く。餌を運んできたときに雄は「クイー、クイー」、雌は「キキキッ」と鳴く。警戒時には「ケッ・ケッ・ケッ」や「キャ・キャ・キャ」と鳴く。

採餌 両翼を浅いV字型に保つ滑翔と羽ばたきを繰り返しながら、風上に向かい低く飛んで地上の獲物を探す。風の強い日には停翔飛行も行う。チュウヒの顔は平面的であり両眼視できる。また、顔盤は集音しやすくなっており、獲物を探すときには視覚だけでなく、聴覚も利用している。餌はネズミ類がもっとも多く、その他には小鳥、カエル、魚などを捕らえる。

繁殖期 4～7月 つがい関係： 一夫一妻

巣・卵 巣づくりは雌雄で行なう。地上に枯れたヨシやススキを粗雑に積み重ねた上にクズなどを皿型に浅く敷き詰めて産座にする。必ず巣は新規につくる。卵数は5～7個であり、産卵後も頻繁に巣材を運ぶ。

抱卵 抱卵期間は約35日間。抱卵中の雌は巣を離れることは少ないが、時折は抱卵交代が見られる。雄が餌を運んでくると雌は巣を離れて空中で受け取る。

育雛 育雛期間は約35日間。ヒナは巣を離れてから何か所かを移動し、移動するたびに草を倒して疑似巣をつくる。巣立ち後もしばらくは親に依存する生活を続ける。